

東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた
機器・装置開発等に係る福島ワークショップ(結果概要)

平成24年8月27日
政府・東京電力中長期対策会議
研究開発推進本部・事務局

1. 開催概要

燃料デブリ取出し準備のための機器・装置開発等に係る研究開発プロジェクトについては、公募を経てまとめられた技術カタログをもとに炉内燃料取り出しに向けた機器・装置の製作や関連設備の具体化を推進していく計画としている。

今般、地元の優れた技術を広範に取り入れていく取組の一環として、福島県内の企業、研究機関、学識経験者の方々を対象として、廃止措置までの研究開発の工程表や関連する各種技術等を紹介し、意見交換を行うワークショップを開催した。

2. 参加者

福島県内の企業、研究機関の方々をはじめとして、約150名の参加を得た。

3. 日時・場所

日時：平成24年8月7日(火) 13:30～16:30

場所：福島県ハイテクプラザ 多目的ホール

4. プログラム

別紙1参照

5. 主な議論

(1) パネルディスカッション：

セッション1における原子炉建屋内の高濃度除染技術やセッション2における格納容器漏えい箇所特定・補修・内部調査技術に係る研究開発の工程、要求技術等についての研究開発プロジェクト実施者からの説明を踏まえ、参加企業等との間で意見交換が行われた。主な質問・指摘事項は以下のとおり。

- ・ 研究開発プロジェクト実施者が求めている技術と福島県内企業等が持っている技術について、お互いの合致する技術等が見つけられるよう、コミュニケーションを密にした体制が作られることが期待される。
- ・ 福島県内には高い技術レベルを持っている企業が存在し、各々企業がもっている技術を組み合わせると面白い製品が生まれ出せるが、一企業で最初から最後まで自前で行うのは無理であるので、各企業が持っている技術をマ

ネージメントしてまとめる者が求められる。

- ・ 技術カタログに載っていない様なアイデアも受け付ける仕組みがあることは有効である。
- ・ 金属加工、樹脂成形加工といった分野の技術アピールは非常に難しい。技術カタログの装置の構成技術について、各部品がどういうスペックが必要か、金属といってもどういう鋼材をどういった精度で加工しなければいけないのか、といったスペックまでブレークして技術開示することが求められる。
- ・ 原子力の分野は耐放射線や品質保証などの対応が極めて厳しい。先端的なロボット開発を行っていても原子力分野の実績がない一企業が単独で技術提案しても採用されるのは難しいため、場合によっては研究開発プロジェクト実施者がパートナーとなって共同開発するような柔軟な体制が求められる。
- ・ 耐放射線技術に関する実績の有無というのも採用に当たっての一つの判断基準であるが、まずは有効な技術であるか、求められる技術にマッチしているかが重要である。
- ・ 今回ワークショップをきっかけに、県内企業が持っている技術を積極的に提案いただき、プロジェクト実施者と県内企業が対等に取り組んでいくことが重要である。

(2) 技術エントリーシートの募集について

資源エネルギー庁から技術エントリーの募集について説明が行われた。本ワークショップ後に、ワークショップのプレゼン資料とともに、経済産業省ウェブページに公表され、9月14日まで募集が受け付けられる。

(以上)

東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた
機器・装置開発等に係る福島ワークショップ
＜プログラム＞

- 13:30～ 開会 ー東北経済産業局地域経済部長 滝本 浩司
- 13:40～ <プレゼンテーション>
- ① 中長期ロードマップ及び研究開発計画の概要
ー資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室長 野田 耕一
 - ② 現場の状況【東京電力(株)】
 - ③技術カタログの公募結果と活用【三菱重工業(株)】
- 14:25～ <セッション1:建屋内の高濃度除染に係る技術の開発>
【(株)東芝】
- 14:55～ <セッション2:格納容器漏えい箇所特定・補修・内部調査に係る
技術の開発>【日立GEニュークリア・エナジー(株)】
- 15:35～ <パネルディスカッション>
- ・コーディネーター
一般財団法人製造科学技術センター専務理事 瀬戸屋 英雄
 - ・パネラー
(株)東芝、日立GEニュークリア・エナジー(株)、
三菱重工業(株)、東京電力(株)
- 16:20～ <技術シーズエントリーシートの募集について>
【資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室】
- 16:30頃 閉会

(参考) ワークショップの様子

